

漣標

MIOTSUKUSHI

1996年3月25日発行

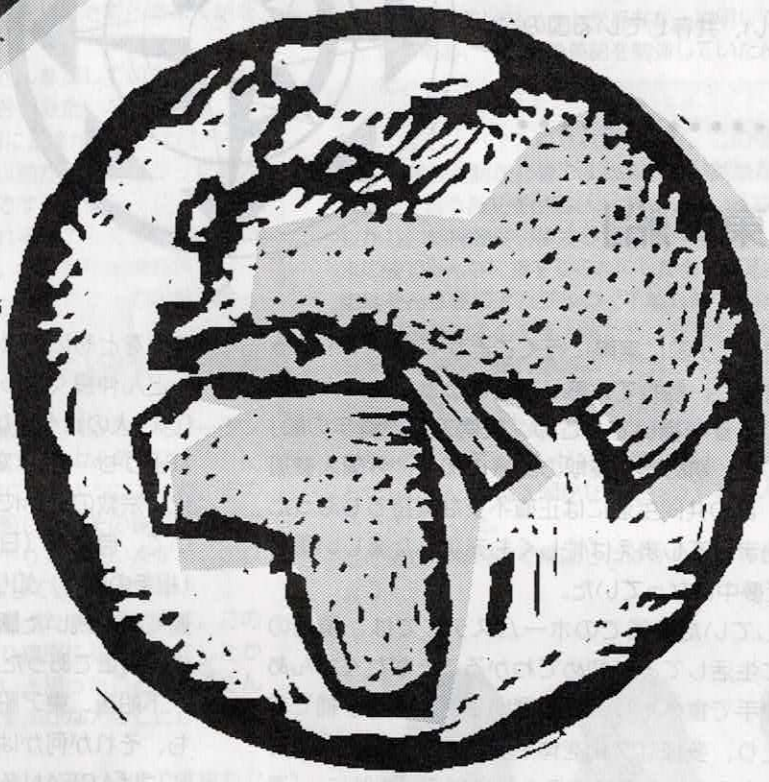
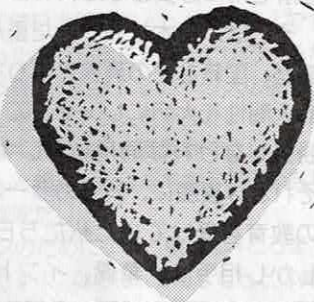
No.63

THE WORLD

大阪府青年国際交流機構

会長 松本 仁孝

世界青年の船参加青年達の思い in コスタリカ
う録す [船の争青てじて南東]



今号の紙面

平成8年度東ア船帰国報告

世界船レポート
in Costa Rica

第3回世界船同窓会

「東南アジア青年の船」を経て

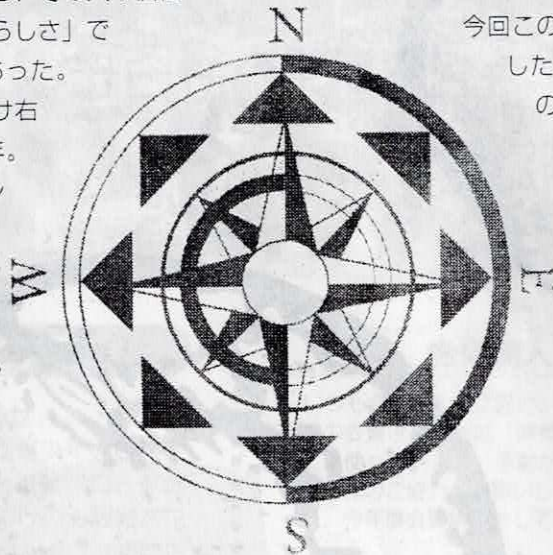
野田 星奈

「人と関わる仕事がしたい」と思い、小学校を選び、無我夢中で子どもと接してきた3年間。しかしそこで見たものは、差別に苦しみ夢を見失っている人々の姿だった。

日本の常識に囚われず、「本当に大切なこと」を見極め、判断するには、当り前のように日本で生活してきた私には困難であった。外から日本を見、自分自身を確立するために、今回「東南アジア青年の船」に参加したのである。

私にとって東南アジア諸国は未知の世界。全く別の常識の中で約20年間生きてきた青年との2ヶ月間の共同生活。言葉、文化、生活様式、宗教、習慣などあらゆる違いを持つ青年350名が数多くの活動において、互いの尊重、相互理解を常に必要とした。

そこは、日本社会が未だ重んじている性別、身分、学歴、職歴、国籍などの肩書きよりもむしろ、その人の個性や人間性を大切に、そして「自分らしさ」で勝負しなければ通用しない場でもあった。それとは裏腹に、同じカラー、右向け右の教育を受けてきた私たち日本青年。しかし相手は、華僑、インド、マレーなどの異民族が個々の民族性を維持、尊重し合い、共存している国の



青年である。個性で勝負！と思いながらも、共通語である英語が苦手なために時々気負っている私を、いとも簡単に両手を大きく広げ受け入れてくれる彼等。日本で生活する中ではなかなか感じにくい「心の暖かさ」を、この事業の中で国境を越えて何度も感じ、今もなお多くの手紙を受け取りながらさらに感じ続けている。

隣人愛に溢れる彼等に対し、愛情表現、信頼ということが少し苦手な日本人である私。「彼等の気持ちに答えたい」、日本という枠組みから一歩抜け出し今回得た様々な思いを大切にしたいと思い、今後の自分の方向性をもう一度じっくり考えたいと思っている。

「他人や自分自身を信頼し、好きになることの大切さ」についていつも教室で子ども達と話し合い、頭では理解しながら私自身どこか確信しきれないでいた。しかし、今回この事業に参加したことにより少し実感した、と同時に改めて家族、友人、教育の大切さを知ったように思う。

そしてこの事業を通し、多くの素敵な人々と出会えたことを幸せに感じている。

私の「東ア船」

加藤 孝誠

東南アジアの7ヶ国に実際に行くことができる！！いろいろなものを見て、触れて、感じてこようと、私は大きな期待と少しの不安を抱いて、この「東南アジア青年の船」事業に参加した。初めての長期の船旅に加え、外国人参加青年（FPY）との共同生活には正直不安な気持ちもあったが、それも始まってしまえば忙しくも充実した楽しい毎日に、ただただ夢中になっていた。

楽しみにしていた各国でのホームステイでは、現地の人々と実際に生活してみて初めてわかることがたくさんあった。食事を手で食べたり、汲み置いてある水を手桶ですくって浴びたり、多様な文化を体感することで、これまでの私たち日本人の文化を意識するようになると同時に、「違う」ということがあまりにも当り前で、こんなにも素晴らしいことなのかと、実感することができた。それはまさに、多様性を受け入れながら共存する過程の実体験であったと思う。

多くの活動を通して、この事業で何よりも印象深かったことは、やはりFPYとの交流である。朝起きてから夜寝る

までをともに過ごし、何か一つのことに取り組むうちにどんどん仲良くなっていった。自分の意識の中でFPY達が、「〇〇人の誰々」から「誰々は〇〇に住んでいるけれど、それよりも…」と変わっていく。宗教や政治、さまざまな文化、宗教の違いについて、そしてもちろん互いの個性について、自分を（日本を）知ってもらいたかったし、相手を（相手の国を）知りたかった。ときに歌い、踊り、そして夜遅くまで続いた語らい。その時間はなにものにも代え難いほど貴重であった。

下船後、東ア船が私に与えた影響について改めて考えても、それが何かはまだはっきりとはわからない。それでも私にはASEAN各国に多くの友達がいるし、これからも連絡を取り合うことができる。さまざまな可能性を秘めたこのネットワークは交流から協力へのひとつの基盤となるであろう。事業は終わってしまったけれど、これから私たちにできることはたくさんあると思う。私の東ア船はまだ始まったばかりである。



世界青年の船参加青年達の想い in コスタ・リカ

第9回世界青年の船の14カ国の青年達を乗せたにっぽん丸が1月20日に晴海港を出港し、ニュージーランド(2/1-4)、チリ(2/16-18)、コスタ・リカ(2/25-27)、メキシコ(3/2-4)とまわって3月21日に帰ってきました。

2年前参加者だった私は、今回の寄港地である コスタ・リカとメキシコでリユニオンが行われ参加し、久しぶりの仲間と再開することができ、また参加した年の違う人達との新しい出会いもありました。そのコスタ・リカで大阪からの参加者である本橋桃子さんから話をうかがって来ました。

R 晴海を出港してから第1番目の寄港地であるニュージーランドまで12日間とっても長かったでしょう。疲れませんでしたか？

M これが始まるまでの準備期間の間、一生懸命頑張ってた疲れがたまっていたのか出港の前日船に荷物を運んでその日の晩に倒れてしまいました。40度近い熱が3日ほど続いてその後ニュージーランドに着くまでの間もずっと体調がもとに戻らず声も出ない状態でした。

R うわぁー、大変だったねー。
ニュージーランドに着いてからはどうでしたか？

M 船から下りて上陸して復活したと思っていたのですが、ハイ・フィーバーといって草などのアレルギーによって鼻水が出て止まらなくなってしまいました。ニュージーランドを出て3日ぐらいすると止まったのですが、今度はチリでお腹をこわして…。でも船の中での生活はそれなりに楽しめましたよ。寄港地でも楽しんだし。これから日本に帰るのが信じられません。ずっとこのままの生活が続くような気がするんです。

R いろいろな国の人たちと一緒に生活をしてきて一番よく話をしたのはどこの国の人ですか？

M 今回は中南米の国の人たちもたくさん参加していますが、私は島国の人たちとフィーリングが合うみたいなんです。ニュージーランド、フィジー、トンガに友達が多いですね。ニュージーランドを過ぎてから、以前からやりたかったアカペラ・コーラスの活動を始めたのですが、ニュージーランドやトンガの人たちが私を支えてくれるのでとてもやりやすいんです。このアカペラ・コーラス、みんなにも大好評でパースデーの出張サービスをしたりピースセミナーの応援で歌ったりもしたんです。

R ところで今身に付けているこのパレオみたいなものはどこで買ったの？

M ここコスタ・リカで買いました。あとこれにニュージーランドの帽子をかぶるといつもの私のスタイルなんです。

R これからコスタ・リカを出て3日後にはメキシコですね。そのメキシコでは中南米の青年達が下船して、その後のハワイではその他すべての外国人青年達も下りてしまいますね。これからは、残された日をどんなふうにして過ごしますか？

M 今までは主にアクティビティ中心だったと思います。この船に乗るまでの準備段階でもかなり綿密にやってきましたから。私の課題だったこと、やりたいと思ったことをたくさん持ってこの船に乗り込み、それを全部かなえることができました。

プレゼンテーションやエキシビションが終わるまでは夜もフル回転だったので“Busy Girl”として有名でしたが、これからはアカペラ以外の活動をすべてストップさせ、これまでの活動を通じて知り合った友達と過ごす時間を増やしているような話かけたいです。

乗船前から獅子舞の練習、鏡開きの準備、大阪紹介ビデオ作成、サンバ…いろいろなことに挑戦していた彼女に久しぶりに会って、いきいきと話をしてくれた彼女がうらやましくなりました。

次に大阪からの参加者ではありませんが坂本智彦さん(以下アルベルト。でも外国人ではありません。)からも話がうかがえたので紹介しておきます。

A ? Queta! (お元気ですか?)

! Muy Bien, Gracias! (ありがとう元気です。)

チリを過ぎてからやっと友達ができはじめたんですよ…。とくにラテンの人と。なのに寄港地、メキシコで別れてしまうなんてすごく残念です。どうして仲良くなったかという先の寄港地のチリはスペイン語の国で現地では英語を話せる人が少なく行動をするとき頼りになるのはスペイン語を母国語とする彼等で、なんだか英語で話しをすることの方が楽に思えてきたんです。すごく親しくなった人が何人かできたのに3日後にはメキシコに着いて現地でも寄港地活動で忙しくなるだろうから彼等と過ごせるのはあとわずか。すごく残念に思えます。

R ラテンの人ってどこの国の人と一番親しくなったの？

A 難しい問題ですね。一番親しく話しをするのは…自分が思うのは、日系ベネズエラ人で日本語もちょっとわかる人です。前のキャビン・メイトだったので結構夜遅くまでいろいろなことをしゃべりました。さっきいっしょにいたチリ人の彼もまじめで僕の尊敬している人です。ラテン人だからといって時間にルーズということが全くなく決められた時間は守るし、いくら夜遅くなくても朝はちゃんと起きてごはんを食べて活動をしているし、それにすごく勉強家だし…。

彼、プレゼンテーションのためにずっと朝の5時ごろまで英語の文章を作っていたんですよ。なのに、そんなこととは知らず、いつも遊んでいると思っていた。プレゼンテーションの時、いつも書いていたノートを見ながら説明している彼の姿を見たとき、ああ、一生懸命英語を勉強していたんだなって思いました。

紙面の都合上(?)載せませんが、このほかにも「この生活にはやっぱり英語が必要ですね。でも、英語が話せる人は英語じゃないって言うんですがね。」…などいろいろ語ってくれました。

しかし、結局彼はいまさら無理な努力(?)をするよりありのままの姿でみんなに接することにしたそうです。

実はそんな彼にアカブルコで下船した中南米の青年達からのビデオレターがあるのです! 私たちは彼等とアカブルコからメキシコシティに向かう飛行機が同じで偶然にもアルベルトのことを知っていたのでメッセージをビデオに取めることにしました。

「また会おうな。」などといった短い内容のものですが、さて、このサプライズ・プレゼントを彼は喜んでくれるでしょうか…。お忙しい中、お話を聞かせてもらってお二人ともどうもありがとうございました。

この続きは報告会で帰国したばかりの彼等から聞くことにしましょう!!



R: 海外レポーター(?) 第7回世界船 土肥訓子(中央)

M: 第9回世界船 本橋桃子さん(左)

A: 第9回世界船 アルベルト(坂本智彦さん)(右)

第3回世界船同窓会 in コスタ・リカ リユニオン in アカプルコ

第5回世界船 岡本

今年も世界青年の船が1月から3月まで行われそのスケジュールに合わせて、コスタリカとメキシコを訪問してきました。コスタリカは4年前に世界船で訪問して以来4年ぶりでメキシコは前回のリユニオン以来2年ぶりです。コスタリカでの6日間の滞在中、にっぽん丸での会議以外に現地の青年が企画してくれたウォーターラフティング、温泉リゾート、乗馬などコスタリカの大自然を100%満喫させてくれました。しかしすべて順調にいったわけではありません。にっぽん丸が港に入港したものの我々がにっぽん丸に乗船できるかどうか当日にならないとわかりませんでした。現地の青年は以前に日本へ問い合わせをしていたようですが、確認がとれていなくて前日になって再び東京へ連絡を入れるなど、彼らの「にっぽん丸」に対する熱い思いをひしひしと感じました。それと同時に今回コスタリカではオフィシャルなリユニオンが開催できなくて残念がっていました



たが、この事業に対する彼らの思い、つまり一度だけのものにせず継続していこうというエネルギーの凄さ、努力に感動しました。

アカプルコでのリユニオンではYEOから3人を迎え、来年の世界船10周年記念で同窓会として何を行うとか世界船のホームページ作成の件、勿論E-mailでの連絡方法など話し合いをしました。

今回の第3回世界船同窓会は東コースだけではなく西コースの既参加青年も数人参加し、第1回から第8回まで(6回はいなかった)まさに回を越えた交流ができ、世界船のネットワークが確実に広がっているのを感じました。

次回はオマーンだそうです。皆さんどうですか？

INFORMATION BOARD

●総会&帰国報告会&お花見のお知らせ

来る4月13日(日)、森ノ宮の大阪府立青少年会館にて平成9年度大阪府青年国際交流機構総会と近畿ブロック幹事会、及び世界船帰国報告会、それにおまけの大阪城お花見大会を開催します！時間は、2時からが総会、3時ごろからが世界船報告会、そして、5時半ごろからお花見の予定。部分的な参加もO.K.です。お花見の場所とりして下さい。大歓迎！多数の方のご参加をお待ちしています！！

●『'97 食博覧会・大阪』開催！！

4度目の開催にあたる今回の開催テーマは、「お国自慢・味自慢」[宴(UTAGE)]。会場には世界の祭りや市場が再現されます。全国の味が集う日本村の「ふるさと街道」、エスニックなアジア村、会場全体が収穫祭のアメリカ村、ヨーロッパの祭や風習で会場を楽しめるヨーロッパ村など。

とき：4月25日(金)～5月5日(祝) 10～19:00
ところ：インテックス大阪(南港・大阪国際見本市会場)
入場料：大人1800円、子ども800円
問い合わせ：(財)大阪21世紀協会 06-942-2008

会費納入のお礼とお願い

いつも会費納入にご協力いただき有難うございます。

皆様の会費は、会報誌「漂標」の経費や活動の補助、支部分担金などに使っています。活動が益々活発になりますよう一人でも多くの皆様のご協力をお願いします。

尚、今年度会費納入をしていただいた皆様です。

数下 晃/見浪弘幸/金谷友子/山口昌孝/河北麻紀/勘場 朗/長澤武彦
奥田真也/瀧 梢/山田睦子/小川英子/嶋村理子/焼野嘉津人
酒井洋右/森脇裕美子/井上久美子/岡田貴代江/西村 薫/賀元澄子
辻 豊治/北出篤夫/牧野博彦/今堀寿恵子/亀井順一/小谷 太
村岡留美/森田(川西市)/羽間善治郎/山田正明/高松 薫/木田節子
矢井敬治/松本仁孝/元野智子/中島恵美/川上隆司/原田佳子
和田良知/木下久子/櫻井 洸/細井浩美/青木和子/藤本和子
吉木麗子/岡本光市/池田留美/長澤恵美/田中康一 (敬称略)

有難うございました。

平成9年度も会費納入の程よろしくお願いします。

同封の払込用紙で、お近くの郵便局で払い込んで下さい。

口座番号 00920-9-94026

加入者名 大阪府青年国際交流機構

金額 3,000円(年会費)

払込料金60円が必要です。

※「¥」や「金」の文字は記入しないで下さい。

青春後記

雨上がりの先々遇の土・日、大阪府の能勢にある青少年野外活動センターへ、古くなったロッジにペンキを塗りに行ってきました。大学時代の4年間、ここには随分お世話になったので、そのお返しつもりで参加したキャンプでしたが、久しぶりの緑の中、老いも若きも(5～70?歳)一緒になって作業するのは、ロッジもリフレッシュできたけど、自分自身のリフレッシュにもなって、気持ち良かったです。外はすっかり春らしくなってきました。皆さんも、身体を動かす労働の楽しさをたまには味わってみませんか？ OH! NO!